

厳しい冬に備えて準備中...

飼育員は見たべあ！

のぼりべつ
クマ牧場通信
77号

2023年
11月1日

発行

のぼりべつ
クマ牧場
動物課



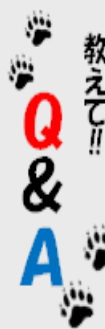
満腹で横になり、くつろぐツララ=10月16日

少しずつ気温が下がり、寒い日が続く季節となりましたが、皆様はどのような過ごしでしょうか。のぼりべつクマ牧場のクマは、これからくる厳しい冬を乗り越えるための身体づくりの真っ最中です。エゾヒグマは北海道に生息している動物なので冬は簡単に乗り越えられそうな印象があるかもしれませんが、そんなことはありません。ヒグマたちは厳しい冬を越すために、厚い皮下脂肪を蓄えます。秋になると急に食欲が上がるので、餌の量は夏に比べると2倍程に増えます。この時期はいつも食べている配合飼料に加え、人参やドングリも与えています。ペロリと食べてしまいます。

皮下脂肪は、防寒の他に栄養源にもなっています。出産を控えるメスグマにとっては特に重要です。出産後春まで母グマは飲まず食わずで子育てしますが、母乳は皮下脂肪を分解して作られます。脂肪が十分に蓄えられないと、子グマを育てられなくなってしまいます。この時期は夏毛から冬毛へと徐々に生え変わるので、外見の特徴にも変化が現れます。夏毛の時はふわふわの毛が無くほっそりとした印象ですが、冬になると夏毛の間にふわふわの冬毛が密に生

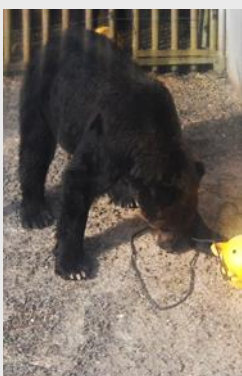
えてくるため、体型もふっくらとしているように見えます。今年も無事に冬が越せることを飼育員も願っています。

教えて!!



Qクマは犬みたいに鼻が利くのでしょうか？

○ペンネーム おでこが砂漠 様
Aクマも犬と同じように鼻が利く動物です。クマの嗅覚は、五感の中で最も優れています。クマが住む森の中は視界が悪いため、目よりも鼻から得る情報がとても重要となるからです。鼻をヒクヒクさせ、その場所に残った匂いから異性や他個体の情報を得たり、遠くの餌を嗅ぎ分けたり、落ち葉の下に隠れた餌を見つけたりしています。そのため、キャンプなどで山に入ったときには、その匂いがクマなど野生動物の餌付けの元となってしまうため、ゴミはしっかりと持ち帰るようにしましょう。



地面の匂いを嗅ぐダイチ
=10月16日

ヒゲマの繁殖検診



のぼりべつクマ牧場では繁殖を行う際、北海道大学にご協力頂きながら繁殖個体の定期検診を行っています。まずペアリング前の検診で、雄は精液に異常がないか確認します。また同時期に雌はエコー検査を行い、卵巣に異常が無いかを確認したあと、排卵のタイミングを予想してペアリングを行います。ペアリング前に排卵してしまふと妊娠が難しくなるためです。ペアリングを解消した後の10月頃には、卵巣の中に黄体(排卵後に卵胞が変化してできる、妊娠のために必要な構造)が残っているかの確認を行います。

最後の検査は、雌を産室に移動する直前に行います。エコー検査で子宮内の様子を観察し、妊娠し

今月の一言

背中から
言わずと伝わる
季節感



繁殖検診の様子と
精液を色づけしたもの(写真左下)

ていれば胎児が映ります。このように定期的な繁殖検診を行い、生まれるか、生まれないかの判定をすることで、繁殖の成功率を上げることが出来ます。今のところヒゲマの妊娠を確認するまでには約半年かかるため、現在、北海道大学と共同で、血液に含まれる情報から、さらに早期の妊娠診断が出来ないかを研究しています。

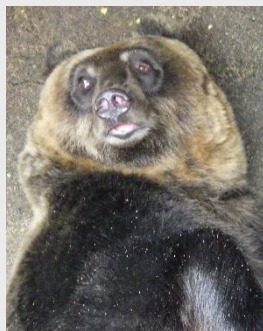
子グマたちへの エンリッチメント



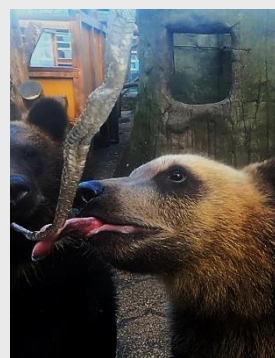
今年の1月に生まれた5頭の子グマたち、実は・・・「食いしん坊キッズ」なんです！ 餌を与えの際はタイヤや浮き球や消防ホースなどの「エンリッチメント器具」を掛け合わせ、少しでも採食時間を伸ばすような工夫をしています。器具の中に餌を入れ、更にその表面にハチミツなどを塗ることで、中の餌を食べながら、表面のハチミツを舐める行動も確認できました。

また、嗅覚エンリッチメントも取り入れ始めています。成獣個体で反応のあった制汗剤スプレーや蛇の抜け殻を子グマに与え、その行動を観察しました。体が一番大きなキスケは、制汗剤スプレーの噴射音に驚いて逃げていましたが、小さなエフは全く動じず制汗剤を舐めるような行動も見られました。蛇の抜け殻にも、ビビりなキスケは後ろに飛び跳ねるような反応をしていましたが、食いしん坊なエフはムシャムシャとそのまま口にしていました。本物の蛇に対して、多くのクマは後退したり警戒音を出すなどの反応を見せますが、今回の結果から抜け殻に対しての

まわりのくまさん



ラッキー♀(8)



蛇の抜け殻に興味津々なエフ=10月3日

反応には個体差があるということが分かったので、蛇の抜け殻を持つていれば、ヒゲマ避けになるという保証はなさそうです。森の中ではなくれぐれもご注意ください。

他のクマよりも食べ物に食欲で、放飼場に撒かれた餌を我先に食べようと、いつも一番に出てきます。また、獣舎に戻る時にも、餌に反応して一番に走って戻ってきます。放飼場に出ている時は1頭で行動していることが多く、飼育員の姿が見えると二足立ちして、餌を欲しそうにこちらを覗いてきます。今年生まれた子グマの「キスケ」と「サラ」も、母であるラッキーに似て食べることが大好きなクマに、すくすくと成長中です。